



## 第2章

# 第5期計画が目指すものと背景

### 1

## 南区を取り巻く状況

横浜市統計データ、関係機関・団体ヒアリング（令和6年5～7月実施）、南区区民意識調査（令和6年5月 南区区政推進課実施）等の結果に基づき、南区の様子をまとめました。

### （1）地理的特徴

#### ア 地形

大岡川・中村川沿いの低地エリアとその周囲を囲むように形成された丘陵エリアから成ります。

#### イ 交通

主な幹線道路は低地エリアに通っています。

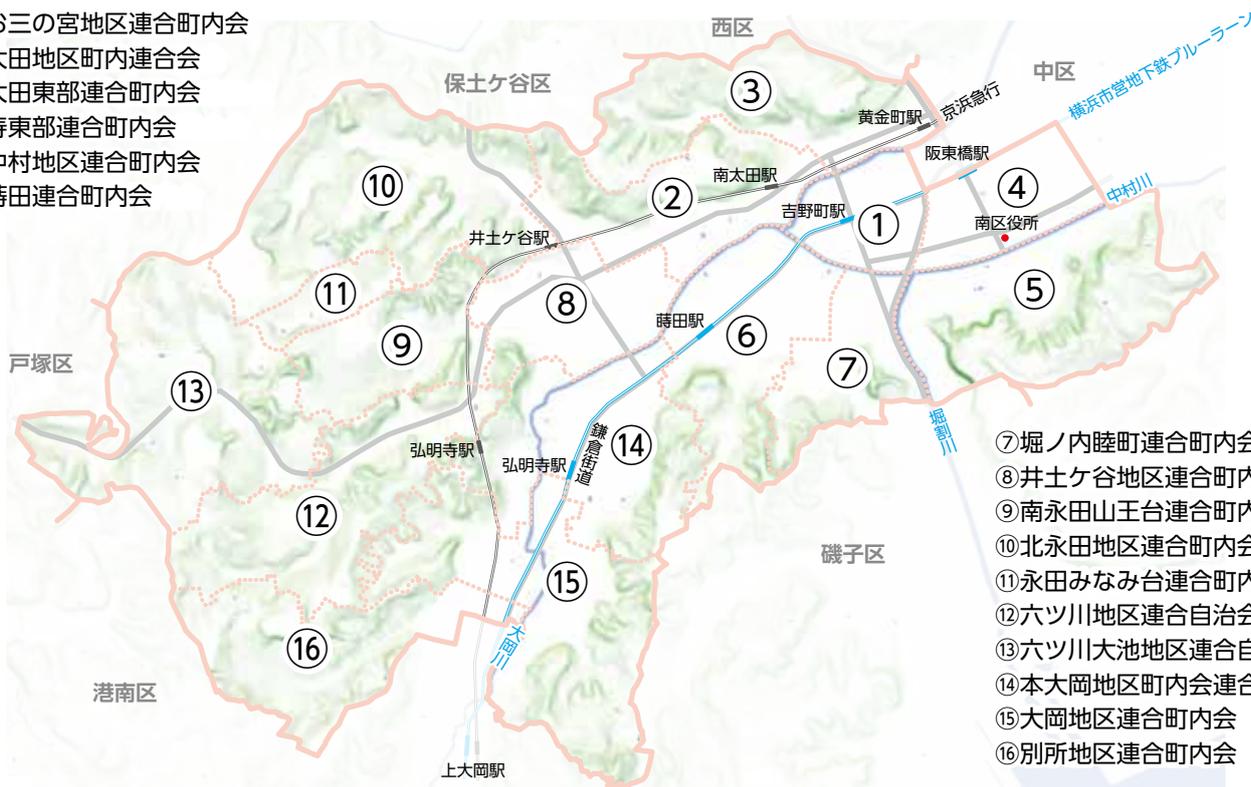
鉄道は市営地下鉄ブルーライン、京浜急行が通っており、横浜駅のほか周辺都市へのアクセスが良い地域です。丘陵エリアにもバス路線がありますが、一部の丘陵エリアでは自宅から交通機関までの高低差が大きく、外出や買い物などが不便な地域もあります。



坂道が多くて外出が大変な人もいますよ

### ● 地形図・連合町内会区域図

- ①お三の宮地区連合町内会
- ②太田地区町内連合会
- ③太田東部連合町内会
- ④寿東部連合町内会
- ⑤中村地区連合町内会
- ⑥蒔田連合町内会



- ⑦堀ノ内睦町連合町内会
- ⑧井土ヶ谷地区連合町内会
- ⑨南永田山王台連合町内会
- ⑩北永田地区連合町内会
- ⑪永田みなみ台連合町内会
- ⑫六ツ川地区連合自治会
- ⑬六ツ川大池地区連合自治会
- ⑭本大岡地区町内会連合会
- ⑮大岡地区連合町内会
- ⑯別所地区連合町内会

国土地理院ウェブサイト「地理院地図 Vector」をもとに作成

## (2) 区民の様子

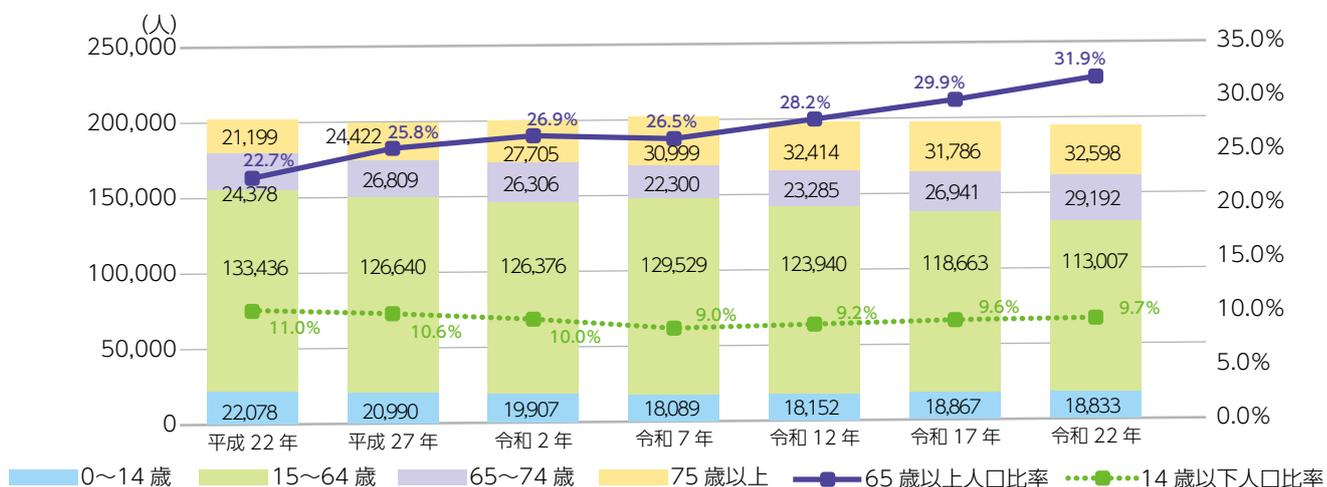
### ア 人口

平成25年と令和5年を比較した人口の増減を見ると、南区では、出生と死亡では死亡が多く、転出と転入では転入が多くなっています。出生・死亡による人口減少率を市内で比較すると、18区の中で南区が最も高くなっています。なお、令和5年は社会増加数が急増したことにより、令和4年と比べ人口増となっています（出典：行政区の人口動態の推移）。

令和5年から25年の約20年間に、横浜市全体では4.9%、南区では3.4%の人口減少が予測されています（出典：横浜市将来人口推計 令和2年基準）。

令和7年3月31日現在、南区の老年人口割合は26.5%、18区中9位で南区民の3.8人に1人が65歳以上です（出典：横浜市統計書）。また、令和12年には、3.5人に1人が65歳以上（老年人口割合28.2%）になると予測されています（出典：横浜市将来人口推計 令和2年基準）。

### 南区の人口変化

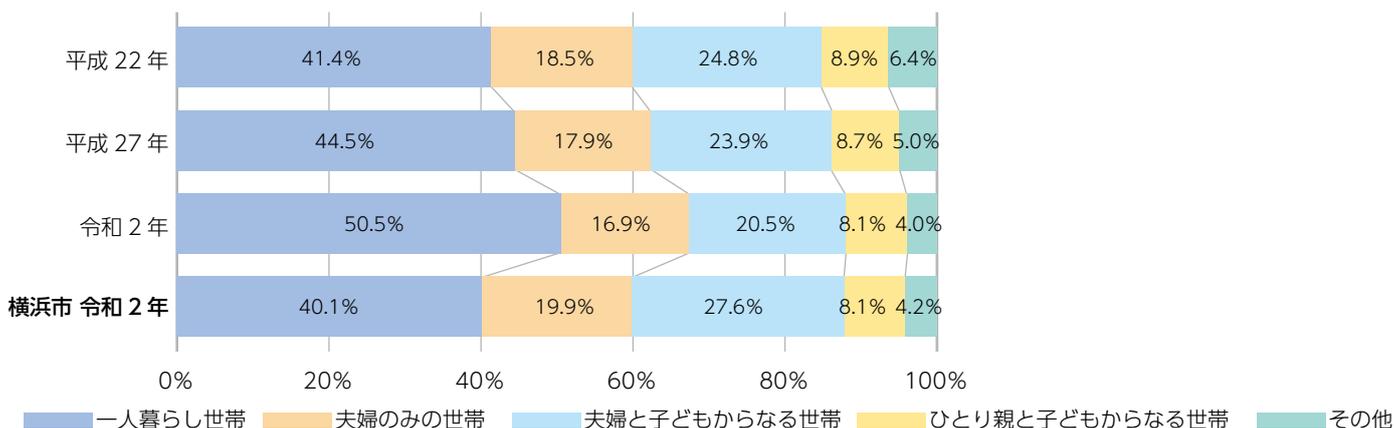


出典：令和7年まで：横浜市統計書（各年3月末現在）第2章5、令和12年以降：横浜市将来人口推計

### イ 世帯

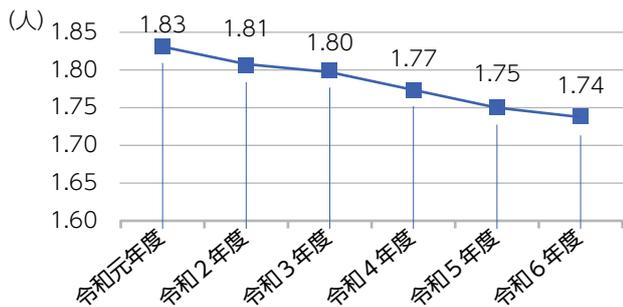
令和2年国勢調査では、一人暮らし世帯数は52,254世帯で、世帯総数の50.5%に達しており、横浜市の平均を大きく上回っています。

### 世帯状況（南区と横浜市の対比）



出典：国勢調査（各年10月1日現在）

## ■南区の世帯平均人数の推移



出典：横浜市統計書 第2章6

令和6年度末（令和7年3月31日）時点の1世帯あたりの人数は平均1.74人で、年々減少しています（出典：横浜市統計書）。



## ウ 子ども

南区の出生数は令和元年は1,236人でしたが、令和6年は1,027人となっており、年度ごとの増減はありますが、全体的には減少傾向にあります。

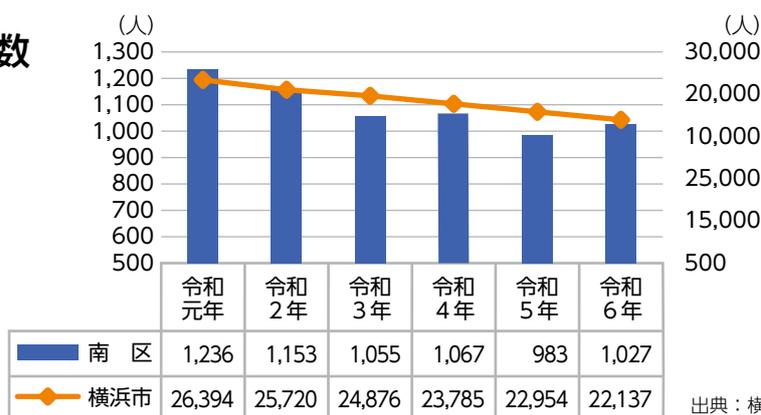
区内では、ひとり親家庭<sup>※1</sup>、外国につながる家庭<sup>※2</sup>、経済的困窮のある家庭<sup>※3</sup>など、様々な事情により多くの家庭が支援を必要としています。

（※1）子どものいる世帯のうちひとり親世帯が占める割合について、南区は市内で2位（令和2年国勢調査から算出）。

（※2）区内の外国人児童・生徒数は、平成27年から令和6年までの10年間で2.60倍に増加。特に令和4年から令和6年の3年間で、28.1%と急激に増加（出典：令和6年度市立学校現況）。

（※3）13ページ「キ 生活保護」を参照。

## ■出生数



出典：横浜市統計書 第2章8（各年1月1日～12月31日）

## コラム 03

### 探してみよう！あなたの身近な子どもの居場所

南区では、30団体（令和6年12月時点）が「子どもが居場所につながり、地域で見守りはぐくむ地域づくり」を目指して、食事提供や学習支援等を通じた活動をしています。

区内・隣接区の子どもの居場所をまとめた「子どもの居場所マップ」を作成し、区内小中学校等に配布するほか、区全体を5エリアに分けたエリア会議を開催し、活動上の課題の共有や、解決に向けた検討など、団体の強みを活かした連携が進んでいます。

今後は、担い手不足への対応や、自治会・町内会との連携について検討し、取り組んでいく予定です。





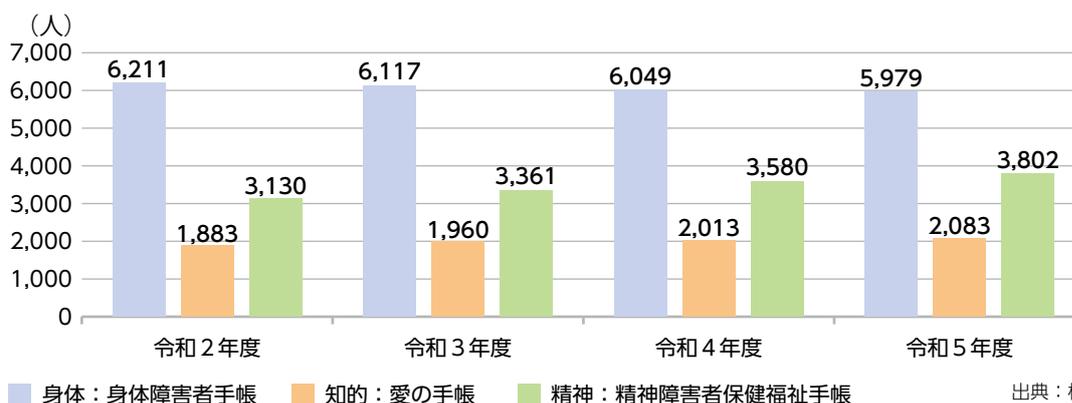
## オ 障害者

身体障害者手帳の所持者は、6,000人前後で推移しています。愛の手帳所持者（知的障害者）は微増傾向、精神障害者等（※）の数は近年急増傾向にあります。

どの障害も、総人口に占める手帳所持者の割合は市全体よりも高い状況です。

※精神疾患のある人は、手帳を所持していなくても福祉サービスを利用できる場合があるため、福祉保健センターに相談している精神疾患のある人（精神障害者等）は、精神障害者保健福祉手帳所持者よりさらに多く存在します。

### 南区障害別手帳所持者数



令和6年度区民意識調査では、58.5%が「日常生活で障害児・者に関わる機会がない」と回答しました。

- 小学生向けの多様性受入れの啓発出前講座や、地域のイベント等により地域住民と交流しています。
- 障害のある人は、地域から声をかけてもらえると地域のイベント等に参加しやすくなります。  
(南区障がい児者団体連絡会)

関係機関・団体ヒアリングより

## コラム

05

### 誰もが安心して暮らせるまちづくり ～障害者週間を通じた地域の取組～

南区には、障害のある人が日中通う施設が約30か所あります。これらの施設の利用者は、それぞれが自分のペースで、いきいきと社会に参加しています。仕事やスポーツ、芸術など、活躍の場は年々広がり、地域とのつながりも深まっています。

南区では、毎年12月の「障害者週間」にあわせて、関係機関と協力し、講演会やスポーツ・レクリエーションを通じた交流イベント、自主製品の販売会などを開催しています。こうした取組は、障害について知るきっかけとなり、互いを理解し合う大切な場となっています。

障害のある人もない人も、安心して自分らしく暮らせるまちを目指して、これからもさまざまな取組を進めていきます。



## カ 外国人

令和6年度末（令和7年3月31日）時点で、南区の人口全体に占める外国人住民登録人口の割合は6.8%で、およそ100人中約7人は外国人となっています。

新型コロナウイルス感染症の拡大が見られた令和2～3年度は減少しましたが、令和4年度から急増しています。

国別では、中国が51.9%と過半数を占め、次いで韓国9.6%、フィリピン8.3%、ベトナム7.3%と続きます（出典：横浜市統計書）。



一方で、令和6年度区民意識調査では、55.2%が「日常生活で外国人と関わる機会がない」と回答しました。

- 外国籍の人と地域住民との相互理解のための茶話会を必要に応じて町内会に提案、支援しています。
- 「一緒に良い町にしていこう」といった前向きな声かけや、心の壁を取り払い歩み寄る姿勢が大切です。  
(みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ)

関係機関・団体ヒアリングより

## コラム

06

### 『ともに よりよい街をつくるため』～多文化共生のまちづくり～

南区は18区の中で外国人人口が3番目に多く、特に寿東部地区などの外国人が多く住む地域では、日本人住民と外国人住民が互いに仲良く、安心して暮らせるよう、様々な取組が進められています。

例えば、生活習慣の違いから生じるトラブルを防ぐため、ごみの分け方や災害時の行動、日本でのマナーなどを分かりやすく伝える「生活ガイダンス」を実施しています。

さらに、地域イベントの案内を外国語に翻訳して回覧したり、通訳を派遣したりすることで、外国人住民が地域活動に参加しやすくなる工夫もされています。昨年開催されたモルック大会には外国人チームも参加し、地域住民との楽しい交流が生まれました。

みなみ市民活動・多文化共生ラウンジは、こうした自治会町内会の取組に対して相談や情報提供、通訳・翻訳の派遣などの支援を行っています。

これらの取組を通じて、互いを認め合いながら暮らせる共生のまちづくりを目指しています。



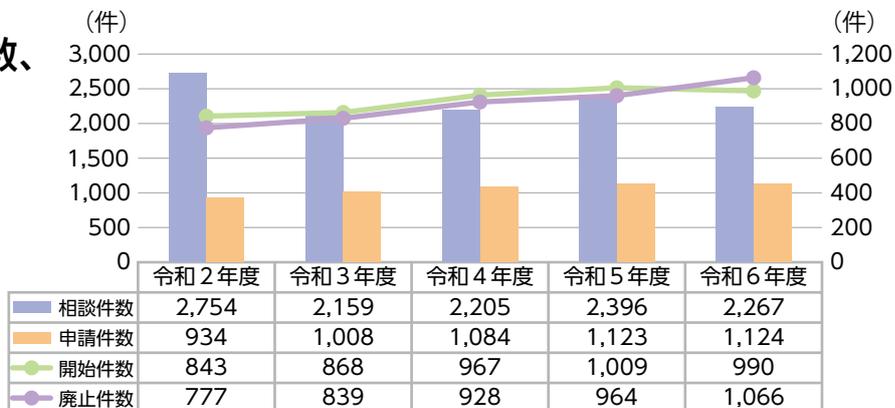
## キ 生活保護

生活保護の申請数は、令和5年度は過去最多となり、令和6年度も同程度となりました。申請数・相談件数とも増加傾向にあり、生活に困っている人が増えてきています。

生活保護率は、南区は3.69%で、市全体の1.82%を大きく上回っており、中区に次いで市内2位の高さとなっています。(令和7年3月時点)

### 南区における生活相談件数、生活保護申請・開始・廃止件数の推移

資料：南区役所生活支援課



横浜市では、生活の困りごとに関して、生活保護の相談と生活困窮者自立支援制度に関する相談を、区福祉保健センター生活支援課で一体的に受けています。

## ク 健康

南区の平均寿命<sup>※1</sup>は男女とも市平均より短く、18区中、男性は79.85歳で17位、女性は86.67歳で16位です<sup>※3</sup>。(令和3年時点)

平均自立期間<sup>※2</sup>も男女とも市平均より短く、18区中、男性は78.11年で17位、女性は82.86年で16位です<sup>※3</sup>。(令和3年時点)

令和6年度区民意識調査では、91.2%が「健康に関心がある」と回答しましたが、食事や運動、喫煙等に関する項目については、横浜市が定める目標値<sup>※3</sup>を下回るものが多く、一層の生活習慣の見直しが必要であることが分かりました。

また国民健康保険加入者向けの健康診断(特定健診)の受診率は、令和5年度は25.3%で、市平均に比べて低い状況です。

(※1) 人が生まれてから死亡するまでの期間の平均、0歳の平均余命

(※2) 日常生活に介護を要しない期間の平均

(※3) 出典:第3期健康横浜21～横浜市健康増進計画・歯科口腔保健推進計画・食育推進計画～

平均寿命－平均自立期間  
＝ 介護が必要な年数  
になるよ



南区はつながりのない孤立した単身者が増えています。単身者は健康寿命が短く、認知症になっても早期に医療につながりにくい傾向があります。(南区医師会)

歯科健診受診率が低いので、啓発していく必要があります。(南区歯科医師会)

高齢者、低所得者、単身者が多いため、偏った食生活などの生活課題があります。(南区薬剤師会)

関係機関・団体ヒアリングより

## ケ 困りごとの相談

令和6年度区民意識調査では、「自分や家族の生活の事で心配なことや困っていることはありますか」に対する回答は「自分の病気や健康」が49.7%で最も多く、続いて「家族の病気や健康」「生活費や経済的なこと」「自分の将来」となっています。

「悩みや困ったことが起きた時、相談する人や相談する場所」に対する回答は、「家族・親戚」が78.8%と最も多く、次いで「友人・同僚」47.5%、「かかりつけの医療機関」23.2%となっています。「相談する人（場所）は思い当たらない」という回答も7.6%ありました。

健康や介護、お金のことで悩んでいる人が多くいるんだね



もっとみんなが気軽に相談できるようになるといいな

隣近所との関係づくりが大事と思っている人はたくさんいるんだね



困りごとの対応の相談はケアプラザに連絡を入れて対応してもらおうことが多いです。  
(民生委員児童委員協議会)

患者さんから診療以外の相談をされて課題をキャッチしたときに相談につなげるようにしていきたいです。(南区歯科医師会)

関係機関・団体ヒアリングより

## コ 防災とつながり

令和6年度区民意識調査では、「近所や地域でできる災害への備えとして大切だと思うこと」に対する回答は、「いざという時の声かけや安否確認ができるよう、日頃からの顔の見える関係づくり」が52.4%、「自治会町内会による家庭での備蓄の啓発」が40.8%、「ご近所同士での避難場所(地域防災拠点、福祉避難所、広域避難場所)の確認」が34.2%でした。

隣近所との普段の付き合い方については、「道で会えばあいさつくらいする」「たまに立ち話をする」「困った時に相談したり助け合ったりする」等、近所付き合いがある層は計77.7%でした。一方で、「顔もよく知らない」層は17.4%でした。

## サ 地域活動

令和6年度区民意識調査では、地域活動に現在参加していると回答した区民は24.8%で、およそ4分の3は参加していないという結果でした。また、「これから参加したい地域活動」については、「ない」が32.7%、「趣味・教養・スポーツ等のサークル」が23.7%、「自治会町内会の活動」が16.7%、「お祭りや運動会等のイベント」が16.4%でした。

「地域活動により参加しやすくなるために重要なこと」に対する回答は、「活動する曜日や時間が自分の都合に合っていること」「活動場所が近くにあること」「家族・友人等、知っている人と参加できること」が上位となっています。

ご近所同士がもっと仲良くなるには、一緒に楽しい活動ができるといいのかも！



## ボランティアセンター

～ボランティアをしたい人とボランティアを必要としている人の窓口～

南区社会福祉協議会ボランティアセンターは、「ボランティアをしたい人」と「ボランティアを必要としている人」をつなぐ窓口です。

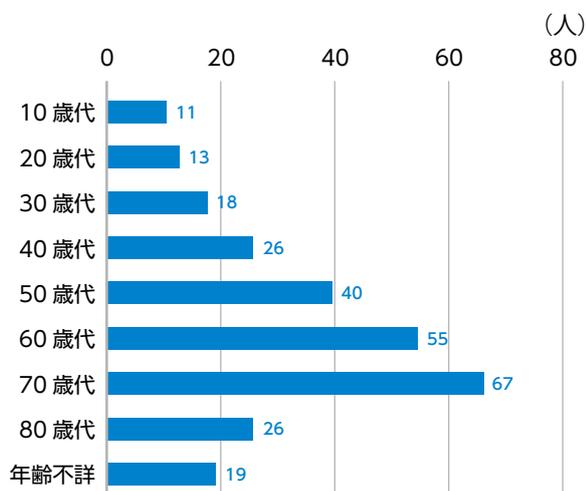
ボランティアをしたい人には、関心のある分野や得意なことを伺いながら、地域の活動をご紹介します。また、ボランティア活動への理解を深め、きっかけをつくるための講座や交流の機会も設けています。

ボランティアを必要としている人には、どのような協力が必要なのかを伺い、活動して下さる人を探します。

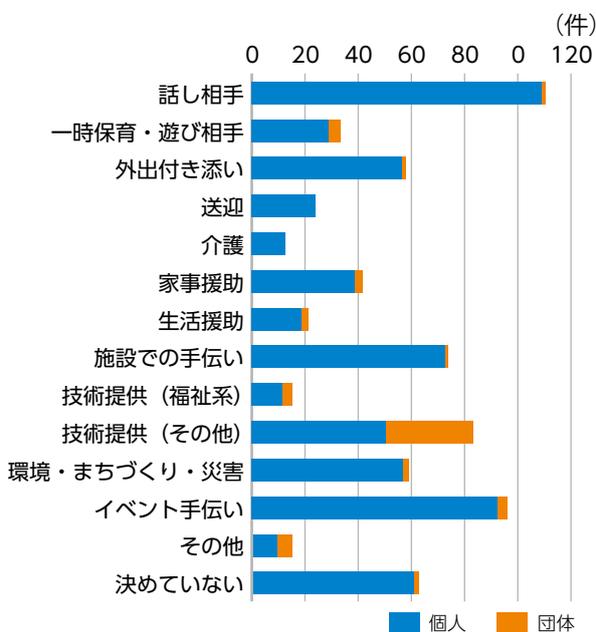
その他、区民の皆さまからの善意の寄付金や物品を地域福祉活動に活かす「善意銀行」を運営しており、区内で活動するボランティア団体や障がい当事者団体などに配分することで、地域の支え合いを応援しています。

私たちは、誰もが自分らしく、安心してボランティア活動に参加できる地域社会の実現を目指しています。誰ひとり取り残さない共生のまちづくりに向けて、ボランティア・市民活動の魅力や意義を発信し、さまざまなかたちで地域のつながりを育んでいます。

### ■ ボランティア登録者人数



### ■ ボランティア登録者活動希望内容



シニア層の  
ボランティア  
登録者が多いね



話し相手や  
イベントの  
手伝いをや  
りたい人が  
多いよ

第4期計画における、4つの目標ごとの取組内容と成果、課題をまとめました。

**目標1** 孤立しがちな人をお互いさまのまなざしで、見守り・支え合いの活動を広げよう  
**〈取組の柱〉**

- 1-1 住民同士の見守り・支え合いの活動の拡大
- 1-2 見守り・早期発見の仕組みづくりの構築

### 主な取組・成果

🌸 **地域での様々なつながりづくりを通じて、見守り・支え合いの活動を支援しました。**

- ◎認知症の早期対応や相談ができるように、各ケアプラザで認知症サポーター養成講座を実施しました。
- ◎学習支援を行う地域住民と、こども食堂の活動を支援したい企業をつなげることにより、新たなこどもの居場所が立ち上がりました。

🌸 **制度の周知啓発や研修、相談等を通じて、見守り・早期発見の仕組みづくりを行いました。**

- ◎地域での生活困窮者自立支援制度研修や出張生活相談を実施しました。団地事務所、ケアプラザと連携することで、相談希望者が増加し、実際の支援につながりました。
- ◎地域で気軽に相談してもらうために、ケアプラザへアクセスが困難なエリアでの出張相談会や、介護保険等に関する出前講座を開催しました。
- ◎当事者・家族を取り巻く地域住民を通して相談につなぐことを目的に、地域活動の担い手に向けたリーフレット「福祉と保健の困りごと対応帳」を作成し配布しました。

### 第5期に向けた課題

- ◆複合的な課題を持つ世帯が増えています。民生委員や区役所各課、関係機関等が連携した、分野横断的な支援が求められます。そのため、相談機関等がそれぞれの業務内容を理解して、スムーズに適切な支援につないでいくことや、相談のハードルを下げる必要があります。
- ◆地域に社会的孤立状態の困難を抱える人がいることに気づき、支援につなげられるよう、地域全体で行う見守りについて、引き続き普及啓発していく必要があります。

### キーワード

複合的な課題を持つ世帯への多機関協働による支援

**目標2** 様々な個性や世代の住民が参加・活躍できる機会や場づくりを進めよう

### 〈取組の柱〉

- 2-1 選択できる多様な参加の場の継続と創出
- 2-2 身近な地域で取り組む健康づくり活動の充実
- 2-3 連携と協働による活動の拡大

### 主な取組・成果

✿ 新たにつながる場や機会を増やすため、関係機関が連携して講座や交流会の開催等に取り組みました。

◎障害者施設とケアプラザ共催で、利用者と地域住民による「ポッチャ交流会」を開催しました。

✿ 多文化共生や障害理解の取組を行い、交流活動の場が広がりました。

◎地域活動の場を通して障害のある人と地域がつながる機会を持ち続けていくことを目的に、「ミニ訪問サンタ」(障害事業所製品を障害のある人が地域活動の場へ届ける活動)を16地区で実施しました。

✿ 健康づくりのために、地域での活動の支援や機会の提供に取り組みました。

◎フレイル予防のちょい足し(高齢者サロン等のいつもの活動の場で、フレイル(虚弱)予防に向けた取組をプラスする)を推進して介護予防の輪が広がりました。

✿ 様々な機関や団体、企業等と連携し、既存活動の充実、新たな活動の検討を進めることができました。

◎地域課題の協議体(地域の話し合いの場)に商店や民間企業等、地域の事業者が参加しました。

◎地域住民とスーパーが連携し、買い物が不便な地区での移動販売を開始しました。利便性だけでなく、高齢者の見守りやつながりの場となっています。

### 第5期に向けた課題

- ◆地域とつながりたい・社会に参加したい障害のある人や外国人、地域貢献活動をしたい企業を地域活動とつなぐことが必要です。
- ◆地域と関わりのない住民が、地域に関心を持ち、気軽に地域活動に参加してもらうための工夫が必要です。
- ◆したがって、コーディネーター役の存在がこれからのキーワードになると考えられます。

### キーワード

**地域における団体の活動を支えるコーディネート機能の充実・強化**

### 目標3 情報を届けることで地域・活動への関心を高めよう

#### 〈取組の柱〉

- 3-1 地域への関心と「つながり」の大切さを届ける広報活動の推進
- 3-2 必要な人に必要な情報が届く仕組みの構築

#### 主な取組・成果

- ✿ **広報の手段を工夫するとともに、多様な媒体を活用して住民へ地域情報を伝えました。**
  - ◎身近な地域活動情報を誰もが把握して活動につながるができるように、Ayamu（ヨコハマ地域活動サービス検索ナビ）の情報更新作業を積極的に実施しました。
  - ◎ホームページやSNSで、地域活動情報について発信する動きが広がりました。
- ✿ **幅広い世代への情報発信や、情報弱者になりやすい人が情報を受け取りやすくするためのサポートに取り組みました。**
  - ◎ケアプラザで高齢者向けの「スマホ講座」を開催しました。SNSを活用したグループが作られ、情報伝達がスムーズになりました。
  - ◎転入者に向けて外国語版の「南区生活のしおり」を配付しました。生活上の困りごとの解決の一助になりました。

#### 第5期に向けた課題

- ◆地域活動情報の発信元が複数あり、それぞれの特徴などが分かりにくいいため、自分に合った情報を選択するのが難しいという声があります。
- ◆外国人の手続き等においては、言葉の壁があるため、多言語やわかりやすい日本語による情報発信が必要です。
- ◆デジタル技術の活用促進が進む一方で、利用が難しい層へのフォローが欠かせません。
- ◆情報の受け手の視点に立った情報提供の一層の工夫を図る必要があると考えられます。

#### キーワード

**情報の受け手がキャッチしやすい情報発信・内容の工夫**

**目標4** 地域福祉保健の活動の基盤を強くしよう

## 〈取組の柱〉

- 4-1 様々な機関が連携した地域人材の発掘と育成
- 4-2 地域活動の充実に向けた支援

**主な取組・成果**

🌸 **誰もが活躍できる仕組みづくりに向け、地域活動の基盤となる人材の発掘・育成に取り組みました。**

- ◎寺子屋みなみ（連続講座）を開催し、新たに活動を始めたい人が地域活動に取り組むきっかけとなりました。
- ◎かいご予防サポーター・認知症キャラバンメイト等の発掘・育成を様々な機関と連携して行い、活躍の場の拡大に取り組みました。

🌸 **福祉・保健活動に取り組みやすい環境づくりとして、助成金等による活動支援、団体・関係機関のつながりづくりを推進しました。**

- ◎子どもの居場所団体交流会を開催し、団体の活動状況を共有しました。さらにエリア別の交流会も行い、区域だけでなく身近な地域での団体のネットワーク強化を図りました。
- ◎移動困難な高齢者の地域活動参加につながるよう、地区社協を対象にタクシー代を助成する制度を設けました。

**第5期に向けた課題**

- ◆地域活動には「地縁型（地域に根ざした活動）」と「テーマ型（共通の関心や目的による活動）」があります。仲間づくり、人の役に立つ充実感、趣味や特技を活かすなど、幅広い視点で、身近な地域で活動を始めるきっかけを増やすことが必要です。
- ◆活動しやすい環境を整えるためには、関係機関や団体の連携が欠かせません。さらに、取組を着実に進めるために、数年先の目標を具体的に設定することが重要です。

**キーワード**

**活動のきっかけづくりは地縁だけではなく、  
テーマ型・仲間づくり・健康づくり等のアプローチも生かす**

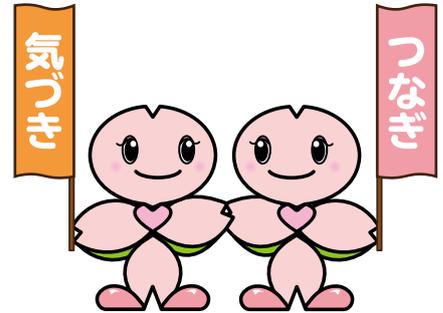
### 地域でのゆるやかな見守りをつながりづくり

南区では、長年住む住民がいる一方で、転入人口が急増しています。新しい住民は地域とのつながりが薄く、支援につながりにくいという課題があり、これは災害時の課題にもなります。住民同士が助け合える関係を築くには、日頃からあいさつなどの関わるきっかけが必要です。

75歳以上の高齢者人口の増加により、公的な見守りだけでは対応が難しくなっています。障害のある人や子ども、制度の枠に収まらない困窮者など、支援が届きにくい人もいます。

そこで「ゆるやかな見守り」、つまり日常の中でさりげなく気にかけるという見守りの重要性が高まっています。

あらゆる生活の困りごとを、住民一人ひとりが「自分ごと」として考え、お互いさまの気持ちを持つことで、助けを求めたり、受け入れたりする力(地域の受援力)を高めることができます。また、商店や医療機関なども見守りの担い手として期待されています。さらに、困りごとを抱える人を支援につなげる方法を広く知ってもらうことや、支援機関同士の連携も大切です。



### 多様性の理解と交流

南区には、年齢、性別、国籍、身体的・精神的な状況、宗教的・文化的背景、社会的地位や経済状況など、様々な背景を持つ区民が暮らしています。

こうした多様な住民が地域の仲間としてつながり、互いの生活上の困難を想像し、助け合えるようになるためには、「違いを認め合い、共に生きること」を共通の理解として関係性を育んでいくことが重要です。

さらに、目の前の人を一つの属性で一面的に捉えるのではなく、その人の背景や価値観、社会的な側面などを含め、個人として尊重する姿勢が重要です。まずは交流の機会を増やし、互いを知ることが、共生への第一歩となります。

### つながりで健康づくり

令和6年度区民意識調査では、「自身の健康に関心がある」と回答した人が91.2%にのぼり、健康は区民にとって非常に関心の高いテーマであることがわかりました。

適度な運動やバランスの取れた食事、禁煙などの生活習慣に加え、多世代交流や様々な活動への参加など、積極的に「つながり」をつくることで、



心身の健康に良い影響を与えるとされています。

身近な地域で趣味やサークル活動などの地域活動を楽しむ仲間ができることで外出の機会が増え、結果として健康づくりにつながります。

人と人とのつながりが生まれることで、助け合いや「お互いさま」の意識が広がり、思いやりや信頼関係が深まります。その結果、誰もが暮らしやすい地域となり、人々がいきいきと元気に過ごすことで、さらに活動が広がっていくという好循環が生まれます。

こうした「つながり」が健康に良い影響をもたらすことを広く周知し、地域活動への参加を促していくことが求められています。



## 地域活動で仲間づくり

地域には自治会町内会活動や福祉保健活動からスポーツ等の趣味活動まで、様々な仲間同士で行っている活動があります。

多くの活動団体がある中で、活動をしたい人が、活動の内容、時間や場所等、自分に合う活動を探しやすくなるには、活動と人をつなげるコーディネートの仕組みが必要です。

地域活動の担い手減少は引き続き課題となっています。女性や高齢者の就労人口が増加するなどライフスタイルが変化していく中で、既存の団体は、活動のやり方を変化させたり、再構築したりすることが求められています。団体同士が交流することや、障害のある人・地元企業などが地域活動に参加することによって、地域活動に変化が生まれ、地域の活性化が期待されます。

また、趣味グループ等の参加がきっかけで地域に仲間ができることにより、地域のボランティアや行事等にも参加しやすくなり、地域の担い手と顔を合わす機会が増えることで、将来地域の担い手として活躍する人材になる可能性があります。

## 情報を届ける工夫

第4期計画期間中の5年間でデジタル技術が進歩し、スマートフォン保有率は90.6%（出典：総務省「令和6年情報通信白書」）となっています。誰もが手軽に様々な情報を得ることができるようになりました。

地域活動においても、団体内の連絡手段としてSNSの活用が広がり、今後は活動内容の発信にも活用したいという声が聞かれるようになりました。

一方で、多くの情報から自分に適しているものを選ぶことは難しく、分かりやすい発信や整理、情報を届ける仕組みを検討する必要があります。このことは、制度や相談等に関する情報においても、地域活動に関する情報においても同様です。

あわせて、外国人や障害のある人等への配慮や、紙媒体での情報が必要な区民への対応など、相手の状況に合わせた発信方法を工夫する必要があります。



## (1) 基本理念

## 区民の情（こころ）が生きるまち 南区

第1期計画から「区民の情（こころ）が生きるまち 南区」を基本理念としています。第5期計画においても、区民一人ひとりの想いや行動を基本に、これを受け継いでいきます。

## (2) 5つのキーワードと3つの目標

第4期計画期間中、新型コロナウイルス感染症の影響による生活上の制限が生じる中で、緊急時に、より早く情報を伝えるための手段や、直接会えない状況下でのコミュニケーションをどのように確保するか等、地域での「情報」の重要性が改めて認識されました。

また、情報を届けることはあらゆる取組に共通することから、第5期計画では「情報」を新たに5つめのキーワードとして位置づけ、目標1・2・3それぞれの取組内容に「情報」の要素を取り込みました。

## 5つのキーワード

つながり

安心

健康

笑顔

情報

## 目標1 安心・笑顔で支え合うまちづくり

住民、支援機関、関係機関・団体による見守りと連携した支援を行うことにより、孤立しがちな人をつなげる・支える活動が広がっています

## 目標2 様々な人が交流し、地域活動に参加するまちづくり

年齢や国籍、障害の有無などに関係なく、ともに地域で交流し、福祉保健や趣味等の地域活動に参加する機会が増えています

## 目標3 地域活動を支える基盤づくり

地域活動に関する情報を知りたい・活動したいと思った時に、取り組みやすい環境が整えられています

# 地域の様々な活動が健康で安心して暮らせる 笑顔あふれるまちづくりにつながっています

## 基本理念の実現

